

言葉の単位：…大きい順に、文章↓段落↓文↓文節↓単語という。

文章：…文が集まって一つのまとまった内容を表したものの。

段落：…長い文章の中の、内容によるひとつのまとまり。

- ① 形式段落：…行を改めて、書き出しを一字下げて書いたまとまり。
- ② 意味段落：…形式段落を意味の上からまとめたもの。

文：…まとまった考えなどを述べたひと続きの言葉。終わりに句点（。）を打つ。

二次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

しばらくのち茶店を出てきしなに、巻きたばこを耳に挟んだ男は、(そのときはもう挟んでいなかったが) トロッコのそばにいる良平に新聞紙に包んだ駄菓子だかしをくれた。良平は冷淡に「ありがとう。」と言った。が、すぐに冷淡にしては、相手にすまないと思直した。彼はその冷淡さを取り繕うつくろように、包み菓子がしの一つを口へ入れた。菓子には新聞紙にあつたらしい、石油に油の臭いが染み付いていた。

三人はトロッコを押しながら緩い傾斜けいしゃを登っていった。良平は車に手を掛けていても、心は他のことを考えていた。

その坂を向こうへ下り切ると、また同じような茶店があった。土工たちがその中へ入った後、良平はトロッコに腰こしをかけながら、帰ることばかり気にしていた。茶店の前には花の咲いた梅に、西日の光が消えかかっている。

『芥川龍之介 『トロッコ』』

① 右の文章はいくつの形式段落から成り立っていますか。漢数字で答えなさい。

② 右の文章はいくつの文から成り立っていますか。漢数字で答えなさい。

二次の文章を二つの段落に分けるとしたら、どこで改行しますか。二段落目の初めの五字を書きなさい。

ボクは一ヶ月前に東京からこの町に引っ越してきた。お父さんの会社が新しくこの町に工場を建て、その工場長にお父さんが選ばれたのだ。お父さんはとてもうれしそうだったし、お母さんも喜んでいた。だが、ボクはサッカーチームをやめなさいといけなかったし、親友のはるとや健太郎と別れることが、もっと嫌だった。でも、そんな気持ちはお父さんやお母さんには言えなかった。転校して少したったある日のこと、ボクは休み時間に一人で席に座って本を読んでいた。サッカーを一緒にする相手もいないし、一人でいるほうが気楽だったからだ。しかし、そんなボクに話しかけてきたのが、隣の席となりに座っていた西川くんだった。西川くんは、いかにも勉強ができそうなタイプに見えた。

